

八月歐洲・南米にと馳けまわらせた。

このような激しい市場競争戦のなかに強引にわたりこむために彼らは何をやるか、それは、全産業にわたって徹底した合理化を行うこと、コストダウンを行うことだ。すでにやっている全面的合理化攻撃は二のようにならざるを得ない。

彼らは、ホーに基幹産業——鉄鋼、電機、化学、石油、化学工業、最新鋭の技術を導入し、新企業を新設し、従来の「日本経済の体質を改善しよう」としている。——そして、労働者階級の「体質の改善」を、彼らは、また一貫した路線となつて行っている交通、運輸、通信部門を整備し、資本主義の体質を整備しようとしている。しかし、彼らはエネルギー部門の再編成を、世界の状況に立ちおくれぬために強化しようとしている。

彼らはエネルギー部門の再編成を、世界の状況に立ちおくれぬために、強化しようとしている。石油産業の回復と、石炭産業の回復を、企業整備の第一となつておられよう。合理化攻撃は、このよう日本ブルジョアに全体の圧力の中心に、おられよう。

さらに、彼らは日本資本主義の伝統的であった繊維日用品の海外市場進出をはかるために、旧織維が化学繊維への大転換を行つて合理化を進めている。これらすべてを労働強化、時間延長、人員削減、企業整備、首切りなどの労働者階級の犠牲の上に!!

これにあらは、このために拡大国家予算を利用し、動かさうとしている。すでに始まつて行っている年度国家予算の編成は、このよう国家資本の要求の上にたてられている。

このような合理化による経済の体質改善をなしとげ、一流強国とならぬためには、これだけでは足りない。いや、一番必要としているのは政治的、軍事的に一流の体制を固めることなのだ。かくて下平等の日本商系を、世界とくにアジアにおいてより自由な政治的、軍事的支配をなす地位をつくるために、安保条約を改定するに、彼らは「永年の宿願」だったのだ。

この「宿願」は、日本を極東における軍事戦線の中心に据えること、である。

こうして日本ブルジョアジーの、現在の政策の要として企てられようとする。

これに反対するならば、帝国主義的政治支配体制の強化のため、彼らのホーの正面突破攻撃は成功し、労働者階級に対する反動攻撃は一層激しい攻撃となつて激化するであろう。

だとするならば、日本労働者階級にとって、この闘争、標準を阻止し、岸ブルジョア政府を打倒するため、臨時国会に向う、九月、十月、十一月の時期は、まさに決定的な時期として迎へられるのだ。!!

三 労働者階級に与つた岐れ道

——一九五九年秋——

このような激戦の戦線にあたり、呼応するかのごとく、階級闘争はいたるところで火を吹きはじめた。

東京山原製作所では労働者が警官隊に踏み込まれた。

成光製糖の労働者は工場に立てこもり、警備隊と市街戦をなすに決意をあらわし、数十名が逮捕された。

北海道の教育課程ボーイコット闘争では、学生数千人が置かれた。

カ・ハ、日教組は新評阻止のための激戦で、全二二、全半連、総評らは、安保阻止の統一行動に立ち上らうとしている。

企業整備、合理化再建案に反対して、炭労の生死を懸けた闘争が、八月十六日以降の東力行僕を皮切りに開始された。

安保反対闘争のために、すでに炭労、私鉄、全鉄、印刷、化学同盟、合化、全海運などはストを確立している。さらに十月にむけて全造船、鉄鋼労働者などは、ストを確立の準備を進めている。

国鉄志免労働者は、日本に予備を求め、山に反対して闘争を準備している。

全三連の合理化反対闘争に前する当局の弾圧への抗議がな

とに、アジアにおける階級的支配を新し、南米のものと再編しようとするアメリカ支配階級の利益と最近の方針と一致するに及んで、急速に進展した。

しかし、彼らはこの闘争が、警備法闘争において爆発した労働者階級のエネルギーを一層煽り、彼らの政治的支配を中破すことをおそれ、一時大きく後退した。

元も子もなくつてしまつてはしようがない。

そして、「民族的威信」恢復を前面にたした藤山構想のもとに、改定の内容を變更して交渉を続けてきた。

その後の半年、社共両党、総評指導部などの裏切りによって、労働運動が危殆の状況に至り、春季闘争において資本攻撃が波及し、小ブルジョアをさすまな構想マン政策を懐疑して、参議院に昇られるような政治的安定がたしかにそのものなるや、

一挙にこの改定をなしてしまつてしまつてきたのだ。

従つてこの改定への暴徒は、その内容を伴つて幾多の政治的反抗(3)

運動を伴つて行われている。八月、政府は日本軍隊を近代化し、核装備するための「ホ二次防衛五ヶ年計画」を発表し、果

年度予算において裏づけを具体化する方針を発表した。ナイキエリコンなどの核兵器による武装、空軍を中心とした近代再編が公然と表明された。

さらに、プロレタリアートに對する政治的反抗攻撃が次々とかけられてくる。日教組を破壊させよう、勤務評定にひきつ

いて組合専従者制限を行ひ、さらに國家地方公務員全体に拡大しようとしている。また、通商国会には、国鉄労組に対する欲

道営業法改正、全通商に對する公社法、全通商に對する郵備して中心的組合を弾圧する法制的準備を続けている。そして安保改定闘争、批准がうまくいかならば、選挙法改正(小選挙区、参院全国区の廃止)、労働三法の改正をも狙つて行つて行つて行つて

つてもよいのだ。

安保改定の陰謀は、このような反動的政治的支配を強化し

れ、更なる要としてこの中央情報局に企てられた合理化にも労働者はたいく看通はしはぬ。

これらすべては、日本ブルジョアジーの攻撃の激しさを示すとともに、二に對する労働者の闘争も激しくなつてきたことを物語つて行っている。だが、おそれねばならぬのは、ブルジョアジーが戦線開始を大々的に宣言するその手之に、日本労働者階級全体が、このような準備を整えられたか否か!!

昨年の警備法闘争は、それまで後退に後退を重ねてきた日本労働者階級に、一挙に舞臺を政府左大まな中をとり、いま一度これを打倒する力をおこした。二の労働者の力に驚いたブルジョア政府は、獅子に乗つてたまたま警備法改正をひのくためだけに、時を同じうしてたくらんだ安保改定の企を變更し、延期せざるをえなかつた。長期雇用計画を改悪して炭労層の橋をたみせ、合理化の外堀を埋めようとした炭鉱資本家も、全労働者階級の闘争の昂りに恐れをなして、一時退却をせざるをえなかつた。藤林アツセン案受、以後沈滞しつづけた国鉄労働者も、その戦力を示した。回復しかけたが、五七年の敗北以後約一年の蟄伏して来た藤林、造船の労働者もストライキ権を確立して闘いに立ち上らんとした。

だがブルジョア階級のこのような反動も、労働者階級のこのような攻撃の転換も、十一月以降の社会党、総評幹部、共産党の裏切りによつてこれ以上に進まなかつた。

「社会の正常化」の名のもとに、社、共の首脳会議によつて、重慶十五日回は過ぎた、政局は安定した。労働者のエネルギーは冷却させられた。

だが、斗いは、一方では自民党の再編成をうながすとともに、労働者階級の指導部の再編成をうながした。しかし二の再編も、約一ヶ月の後、自民党大会での岸の再燃と労働者階級の参議院選挙

への熱中によりララチキされた。
支那階級は、安保交渉をいかに藤山外務官係によつて行かせつゝ、撥法、国民年金法などによつて小ブルジョアを拡張するなどの巧妙な政治的再編の村会を待ち、他方、資本家階級によつて激しい資本攻撃を浴びさせた。

労働者は春季斗争に大きなエネルギーを發揮しなげら、またまた幹部たちによつて裏切り、運動は危境にまで到着した。労働者政、組合幹部たちは、この資本家と闘う労働者大衆をおきざりにして、地方選挙、参議院選挙に熱中した。階級斗争を坂にした議會の多数獲得!! だがこれでは選挙を勝ち取れない!!

「警報云粉砕の次は、安保改定阻止だ」と、社会党も、共産党も総評幹部たちも皆叫んだ。だが警報云斗争の重要な教訓はなに一つ学ばれなかつた。——いや、労働者階級の偉大な力の代りに、小ブルジョアへの労働者の従属が、二の斗いの教訓として「学ばれた」!!

安保斗争は、労働者の斗いととはなれた、小ブルの平和主義の政治カンパニアにすべがなされた。階級斗争の思想の代りに、ブルジョアジーとの妥協のイデオロギーが「中立」「民族の独立」と労働者に注入された。

小ブルジョア政党的社会党、共産党の統一が、議會への議席獲得の夢をたくして、喧々囂々来た。

二つに多向に労働者はおきざりにされ、労働運動は危境に立ち入り、幹部たちも「春季斗争の行詰り」「民権指導の危境」を云々する状況に突入していつた。

ブルジョアジーは余裕をとり戻した、政治的安定をとり戻した。六月の参議院選挙は、二の6ヶ月の階級斗争の当然の帰結であつたのだ。始つた政治再編成は、ブルジョアジーの優勢のものと見んだ。政治的高空飛翔!!

支那者たちは自信をもつて宣言した。安保改定の強行!! 労働者階級も当然二米に屈しようとする。

(6)

二次ではどうなる!!
労働者大衆は、もう指導者たちを頼りにしない。参議院選挙の終了後、労働者は幹部の言にわけを三えて、六・二五、七・二五、八・六の急激にエネルギーをだして平つた。

「重い」「燃えない」と指導者たちがいつのた辰目に、労働者は重士をねのけ、エネルギーを燃え上つた。

驚いた総評幹部は、またまた敵の見せかけの後退を口実に斗いを延ばし冷却させた。日共は、自民党の威嚇と口重を合わせ、原水爆斗争から安保斗争を、安保斗争から岸内閣打倒をソリのた爪せよつとした。しかし労働者はもうかゝる口重にはのりない。

十月セネストを宣言した東京批評、関東ブロッコ会議が二枚を証明している。「中立」を二かに小りとばし、安保改定阻止・岸内閣打倒を叫ぶた地評労働者は、はつきりと自分らの手を斗いの方向を指示した。

おきざりに労働者は、自分たちの運命が、そして、長期にわたる日本労働者階級の運命が、二の安保改定阻止斗争に、そして九月から始まる二の一九五九年の秋に賭けられていることを知つておるのだ。運動の危境から脱出の道を進むために、資本家階級の攻撃をくつがえし守勢から攻勢に進むために、ブルジョアの攻勢の要、安保改定阻止、資本家政府岸内閣の打倒へ巨大な斗いを進める二と二と、労働運動の曲り角を左へ向ける鍵があることを知つておるのだ!

安保改定阻止の斗いは、すでに放棄してある労働者階級の斗いを一つに一つ、個々の資本家への憎しみを階級ブルジョアジーへの憎悪へ発展させ、改良の要求をしてブルジョア支配機構へのオ一步となる政府打倒の要求につぎす、ませ、階級と階級の激しい斗いへ導く二によつて、敵資本家階級を覆かきせしめるものなのだ。

二の番以外には、労働者階級の斗いが前進しないことを知つておる彼ら二、彼らは二の叫ぶのだ。

だが、二の階級の二の指導者たちは、切実な労働者階級の運命に屈したか?!

「自己批判」大会として用意された日教組大会を度切りに始まり総評大会に到つた、各労組単産全国大会の大会シーズンには果して、ブルジョアジーの再編と政治的高空勢に對して、岐路に立つた日本労働運動の立ち直りのきつけをつくつた二つは?!

労働者の期待を集め、資本家たちの注視のもとにひらかれ、秋の戦いの準備をする性格をもつた総評大会は、階級斗争の新段階に呼応する方針を労働者に与えたか?!

参院選挙の敗北の原因の究明は左からではなく右から始められた二とやらんぞ、不思議な二に日本労働者階級の中核、総評大会に於いて、新劇を懸かせた二とやらんぞのエネルギーを黄さるて論議されたのは、各単産大会と同じように、またまた、社、共両党支持が舌爪の論議であつた。春季斗争の真剣な自己批判をなく、決戦を迎える安保斗争の斗いの討議をなく、指導部の日和見主義に對する革命的方針の討議をなく、合理化功勢に苦吟する労働者の切実な斗いの真剣な論争をなく、たゞ異党々関心とエネルギーが注がれたのが、同じよう方針を二つた二つの政党的派閥争いに加意味しない政党支持論争だつた二とは、日本労働者階級の指導部が労働者を全く忘れこしまい資本家階級を忘れこしまつた二を意味した。しかし、日本労働者の中核を占める総評が二のよう状況である二とは、日本労働運動の岐路道の決定は、たゞ、労働者階級が、資本家連の政策に真向から立向い、斗い指導部をのりこえ、二の日和見主義を粉砕し前進する二以外にはない二をせしめたのだつた。

総評大会は、調印抗議、批准抗議といふ始めから負けを見越した安保斗争の方針しかたさなかつた。最も重大な時期、十月下旬はたゞ、一日のデモ行軍——平和行進でお茶を草す二に取

彼らの叫びは正しい。

一九五五年秋の安保改定反対の斗いの成功の発展は、資本家階級の政治功勢の要を指摘し、「安保改定に生命を賭した」岸政府の生命を奪い、さきに全資本家階級を後退させ、岸内閣を日本人民にもたらす二である。二の斗いは、調印から批准へと進む二とする岸政府と直向から対決する斗いと成り、二に、全労働者の合理化反対斗争、来年度予算への斗い、春季闘上げ斗争を結合し、発展する日本労働運動の転機をきたす二である。

七二の斗いに失敗する二ならば、労働者階級の斗いは合断を水、資本家の各個重破に委ねられ、帝國主義的反対支配強化の政治功勢の相繼ぐ砲火の下に、日本労働者階級は、加なり長期の危境を甘受し受けねばならぬ二である。

斗いは既に始まつている。

九・八の斗いは、日教組労働者の激しい決意を二めた徹夜半リ二に對する、血に飢えた権力者たちの攻撃のうちに斗わねる二である。

総始、反帝の英雄的斗いの先頭に立つてきた全学連の学生无ちは、九・八に、九・一八に全固的に立ち上り、十月、十一月セネストに向つて二つの方針を決定した。

企業整備：首肯りに反対する炭労は九月一六日女期して東力行候に入る二を決定した。

安保改定阻止・岸内閣打倒のため、全労働者階級は、十月十一月セネストで立て!!

日本労働運動の岐路道——一九五五年秋を

労働者の安保改定反対のセネストで迎えよ!!

と。

安保改定阻止・岸内閣打倒のため、全労働者階級は、十月十一月セネストで立て!!

日本労働運動の岐路道——一九五五年秋を

労働者の安保改定反対のセネストで迎えよ!!

もちろん、岸をぶつてはからと云って、プロレタリア権力がこれに代るものではないと考へるのは、バカげてゐる。だが、岸内閣が、鳩山一石橋とついでに中野の政府の後には、ブルジョアジーの意志を最も忠実に、最も執拗的に遂行する「清新強力な政府」として五七年に成立して、今また安保改定を前にして内閣改選を行つて、一月間ブルジョア多数のとりでたらんとしてゐる以上、これを打倒するに、ブルジョアジーの諸政治プランに大打撃を与へ、階級闘争に極めて有利な局面をきり拓くべきであることは明白である。「岸内閣打倒」と高く掲げよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、

だが「岸内閣打倒」は、まさに、安保改定阻止の烈しい実行力の象徴、大衆闘争の昂揚の中でのみ、実現されるべきである。それ以外の方法で、それ自体を目的にしようとするならば、それは、まさに社会主義に背するものである。

ブルジョアジーは、すでにこのことを計算に入れてゐる。彼らは西尾派のみならず、社会党の「左派」といわれる和田派等の旧官僚グループを取りこぼすことにより、昂揚する闘いを、社会の赤いシールドの上で限定しようとする策動をほめてゐる。

ブルジョアジーとこれの社会民主主義者もまた、警取派闘争の経験からして無味にはしてゐないのだ。あの時、わずか一ヶ月で爆発した四〇〇万のストは、岸内閣の土台を大きくゆすり、同時に、社民の民間の労働運動支配を下方から崩さうとしたのである。

(9) このような状況が、一夜にして、自民党と社会党の妥協を成立させ、問題は翌日から口論の喧嘩の中心と二つめられたのである。一奇妙な勝利！
 斗争の昂揚の時、社会主義は、最大の優越性を可能にする。社会主義を道徳に、大衆闘争で、階級闘争の暴力行使で岸を倒せ！

(10) あらゆるたまたかいのエネルギーを汲みだせ！

(11) 一〇、一一日臨時国会開議のゼネストへ！
 今やすべては明らかである。
 敵は何よりさき、日本赤十字主義ブルジョアジーであり、斗いの主力は、あくまで労働者階級であり、その実行力があり、斗いの目標は、「安保改定阻止、交渉打ち切り、合理化反対、岸内閣打倒」にある。

最後に必要なのは、具体的行動方針だ。
 それはゼネスト以外にない。しかも「調印」を拒否し、批准前ではだめだ。交渉中、調印前に一掃くわゆることが鍵だ。それが「臨時国会開議日、11月ゼネスト」だ。

だがそれは必ずしもかちどけられない。無敵なら、すべての公敵左翼はあるいは反対し、あるいは無抵抗し、あるいはごまかそうとしてゐるからだ。

共産党はどうか。この「民族愛国民主党」は、プロレタリア党と自称したところのあるのを捨てて、口頭主義一歩進めの中古の統一のために狂奔し、はじめは岸内閣に、おしよりに労働者のゼネストに賛成しない。つまり、反対するに至った。今や一〇、一一月の「ゼネストの否か」と問題がすでに下から上へと述べた東洋地評から、提起されてゐるとき、「はやする」とか「めやす」とか去つて賛成しないことは反対することに他ならないのであつて、「一部には、われわれがストライキ形態の斗争を遂行してゐるかのような誤解もあるがどうぞない」(アヲハタ八月二十七日主張)などといふわけをしてゐる。プロレタリア運動としてこの党の存在は、いまや斗いの標格と化した。

社会党。選挙の敗北以来、活発な党内斗争を展開しなからず、結局は選挙の手先、西尾を追いだせないでゐるこの党は、労働者の口頭主義であり、「安保体制打破」である。たゞ共産党よりも労働組合等に影響力をもつてゐることにより、口コソに重要なものではなく、もつと巧妙に裏切ろうとしてゐる。それゆゑに述べた社会主義だ。

安保改定阻止、岸内閣打倒のために十一月ゼネストを組織せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、

安保改定阻止、岸内閣打倒のために十一月ゼネストを組織せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、

安保改定阻止、岸内閣打倒のために十一月ゼネストを組織せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、

安保改定阻止、岸内閣打倒のために十一月ゼネストを組織せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、
 岸内閣打倒を放逐せよ、

一 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係

賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係
 賃上げ、合理化反対斗争と安保改定斗争との関係